

# 協働に関する職員アンケート調査

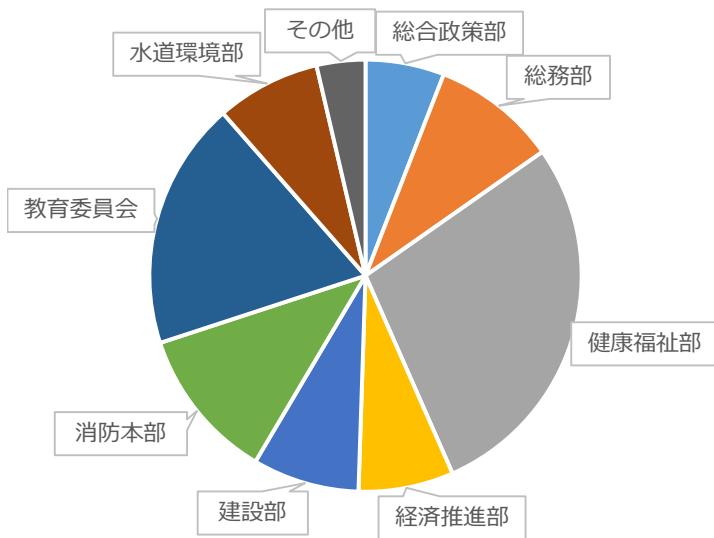
作成日 R5.2.24

対象 橋本市職員（776人） 回答数 577件

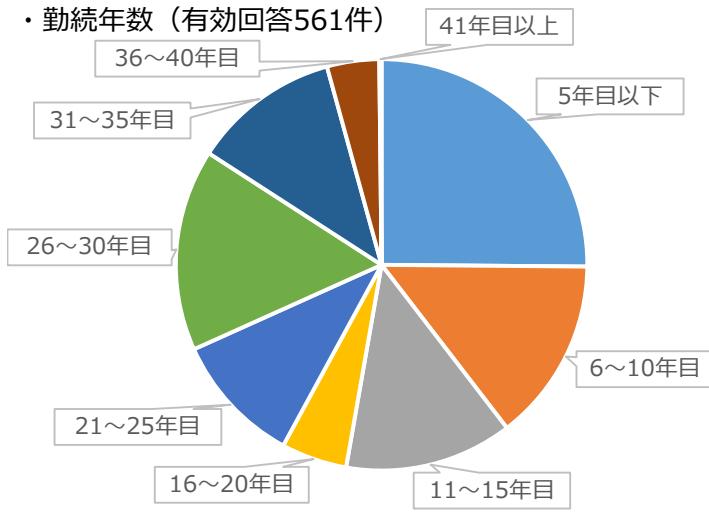
実施日程 R5.2.7～22 回答率 74.36%

## ・回答者所属（有効回答576件）

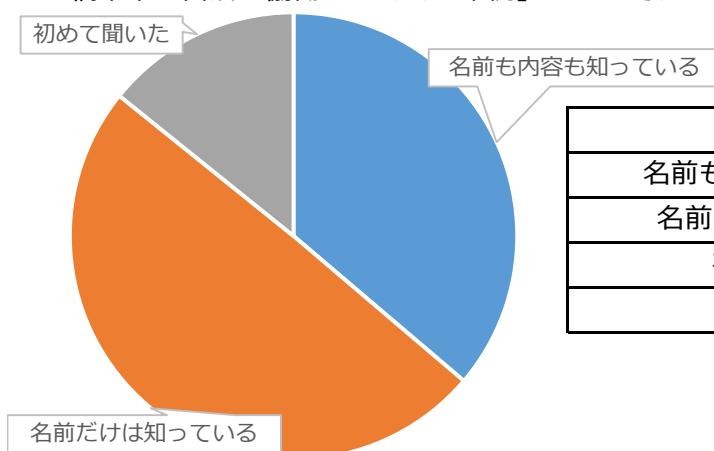
その他：議会事務局、危機管理室、出納室、選挙管理委員会、監査委員事務局



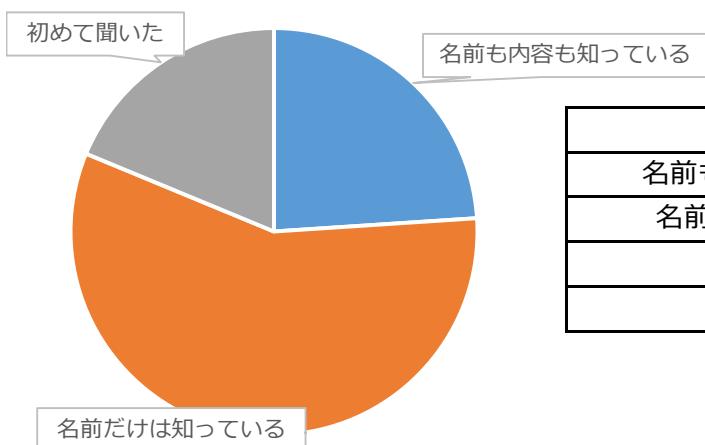
## ・勤続年数（有効回答561件）



## ・「橋本市の自治と協働をはぐくむ条例」について、どの程度知っていますか。（有効回答577件）

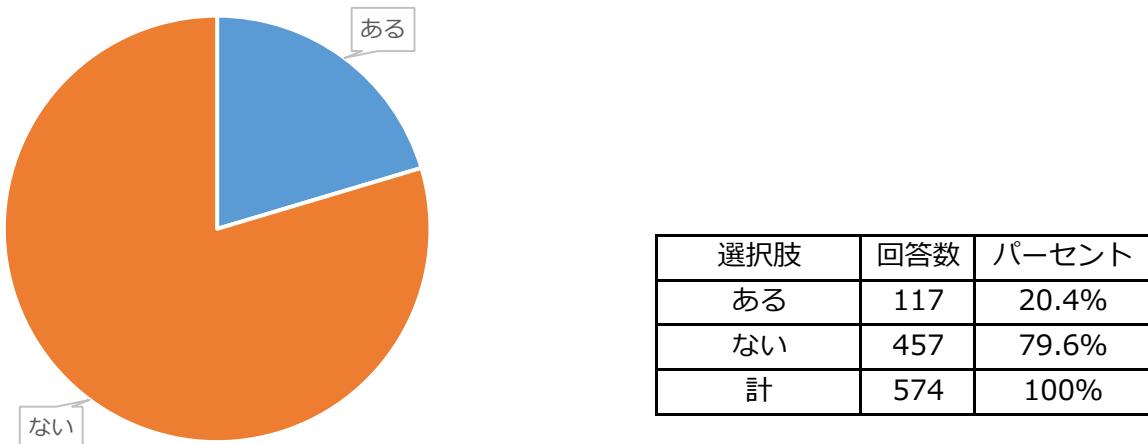


- ・平成20年策定の「橋本市協働の基本指針」について、どの程度知っていますか。（有効回答576件）



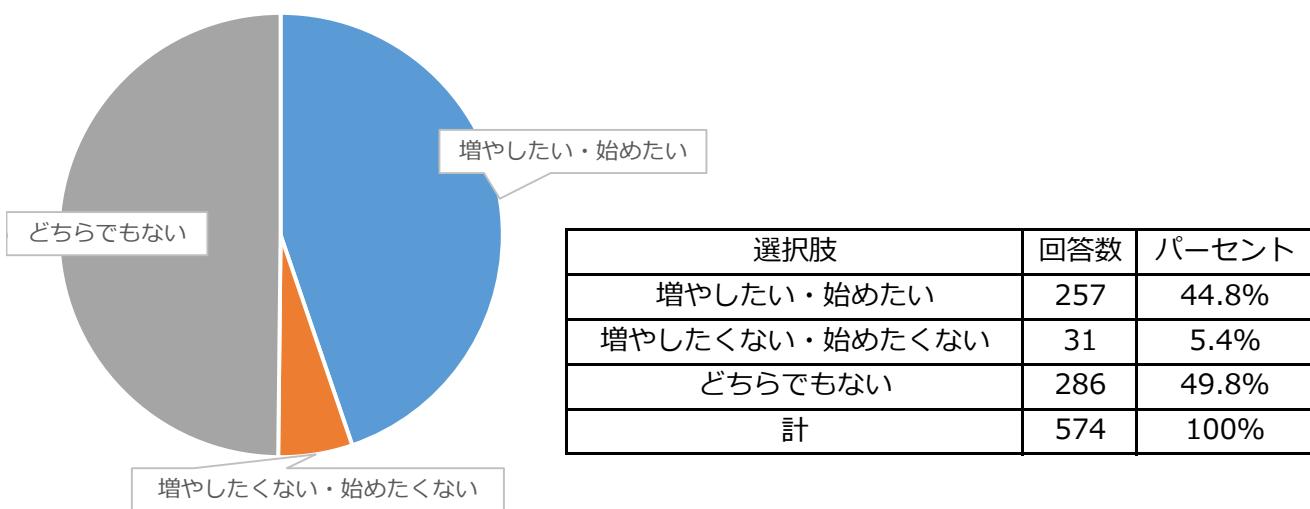
- ・協働実績（有効回答574）

今年度の担当業務において、地縁組織（区・自治会など）や  
市民活動団体（ボランティア団体・特定非営利活動法人など）と協働の実績はありますか。



- ・協働の今後（有効回答574）

あなたは今後、協働を増やしたい・始めたいと思いますか



令和4年度の担当業務において、地縁組織(区・自治会など)や  
市民活動団体(ボランティア団体・特定非営利活動法人など)との協働の実績

**【事業名】避難訓練**

**【概要】**

自主防災会との避難訓練です。防災放送にてこれから避難訓練を行う旨を放送し、避難所である集会所に集合していただく。集会所では、橋本消防の方々による心肺蘇生訓練や煙体験等を行い、給食部の方々による非常食を試食する。ほかに防災の放送の聞こえはどうか。避難所までどれくらいの時間がかかったか。などのアンケートを取る。

**【主な成果】**

近隣の方々が隣近所の方と一緒に避難場所に来るので災害の時も隣近所の方々を気にしてくれると思う。

**【課題】**

高齢者が多い中、どのようにしたら一人でも避難することができるかが一番の課題。

**【事業名】橋本商工会議所の「恋のチューリップ畠」**

**【概要】**

橋本市恋野にチューリップを植えて沢山の人に憩いのオアシスとして楽しんでいただこうという計画に、チューリップをボランティアで植えてくれる人を募集していたので、市の職員として数名で参加した

**【主な成果】**

咲いた時のことを想像すると楽しく作業できました。

沢山の人で賑わうように、他の人にも紹介でき計画としては作業する段階で成功に向かっていると思います。

**【課題】**

チューリップの取り扱いがわからないので植える要領が皆様々であった。

始める前に時間を持って簡単な講習か(10分ほど)、資料があればなお良かったと思います。

**【事業名】放課後子ども教室事業**

**【概要】**

放課後等の空き教室などを使って地域の人の力を借りて子どもに安心安全な居場所を確保する

**【主な成果】**

子どもと地域の人の交流と子どもの見守りができている

**【課題】**

協力者の確保や後継者探しが慢性的に課題にあげられている

**【事業名】柱本田園自然環境保全会と里山学校**

**【概要】**

園児と保護者が柱本小学校5年生と芋谷の棚田で田植えと稻刈りをさせていただき交流した

**【主な成果】**

地域の豊かな自然環境を知り、保全会の方々と交流できたこと

**【課題】**

芋谷の棚田まで園児の足で40~50分かかるので、頻繁に園児を連れて棚田の様子を見に行けないこと  
事業者団体に高齢者が多いため存続が難しいこと

**【事業名】地域の方との交流**

**【概要】**

地域の方のご厚意で、花の苗をいただき、園児や職員で園の花壇に植えたり、保護者に分けて家庭に植えてもらったりした。

**【主な成果】**

園児の身近な自然に触れて遊ぶ環境作りのひとつとなり、水やりや観察をすることで、苗の生長に興味をもち、花が咲くことを喜び、花を遊びに取り入れて楽しむ姿が見られた。保護者の方も花に興味を持たれ、親子で花の生長を楽しめていた。

**【課題】**

地域の方のご厚意に甘える形になってしまっていること。

**【事業名】**一般社団法人はしづこえがおサポート

**【概要】**

こども食堂、学習支援

**【主な成果】**

・子供達の交流の場つくり　　・学力の押上、不登校児童の支援

**【課題】**

コロナ禍での運営

**【事業名】**家庭教育支援室ヘスティア、本の会コスモス

地域の方との交流や見守り、中学校区共育コミュニティ

**【概要】**

園にヘスティアさんや本の会コスモスさんをお呼びし、PTA保護者が参加する機会を儲け、共に子育てをする者同士が親睦を深め、繋がりを深めることで、子育て力の高まりにつながる。

**【主な成果】**

子育てをする保護者がヘスティアさんの講座や地域の本の会コスモスさん、地域の方との交流を行うことで、リフレッシュしたり、楽しさを体験したりし、子育てへ前向きに向かえる。園の職員だけでなく、ヘスティアさんや本の会コスモスさん、地域の方との協働で、子育て力が高まっていくと思われる。

**【課題】**

地域の方には、今もあたたかく園児を見守っていただいたり、交通安全などにも日々ご協力いただいている。コロナ禍もあるが、感染症対策をしっかりと行いながら、地域の方との繋がりを深め、園教育、地域と共に子育て力を高めていきたい。

**【事業名】**作品展

**【概要】**

「ふれあって！せいぶ」が中止となったことに伴い、それに代わる取り組みとして開催。山田地区公民館で活動するサークルや、管区内の個人・団体の作品の出品。さつきこども園、西部小学校、橋本中央中学校、紀北工業高等学校からはそれぞれ作品の出品と、日頃の子どもたちの様子がわかる映像を上映した。また、ロビーにおいて子どもから大人まで参加できるプラバンでキーホルダー作りを開催。

**【主な成果】**

山田地区公民館運営委員会と管区内の、園、小・中学校、高校、や地域の個人・団体(人権啓発推進委員会、地域のサロン)が、それぞれ主体的に取り組んでいただき開催できた。

**【課題】**

「ふれあって！せいぶ」が再開された時の事業のあり方を、年度当初から運営委員会を中心に考えていかなくてはならない。関わっていただける団体の変化が大変不安。

**【事業名】**マイナンバーカード出張申請(ラッピングカー)

**【概要】**

各区にラッピングカーで出張し、マイナンバーカードの申請を行う

**【主な成果】**

移動手段がなく、オンライン申請など行う事が困難な方をはじめ、区内で広報して頂いた事により、多くの申請が得られた。

**【課題】**

区内でチラシ配布等を行い広報しているが、マイナンバーカードに対する関心があまり得られていない場面もある

**【事業名】**よみきかせ会

**【概要】**

登録ボランティアによるお話会

**【主な成果】**

乳幼児から小学生低学年児童と保護者に楽しい時間を通じてお話や絵本を届けられる

**【課題】**

新型コロナ感染拡大に伴い、参加者の減少

**【事業名】地域一斉清掃 園児職員参加**

**【概要】**

区長と連携を取りながら共育コミュニティの事業として地域の清掃に参加する

**【主な成果】**

地域の中で育つ子どもたちという意識を、園側と地域双方持つことができた。

**【課題】**

コロナ禍以前は地域の方も大勢参加され、子どもたちと触れ合っていただくことができていたが、現在は大人数での取り組みができない。少しずつ以前の取り組みに戻していくようにしたい。

**【事業名】グラウンドゴルフ大会**

**【概要】**

地区公民館の各ブロックでのグラウンドゴルフ大会

募集、集約は公民館でし、商品購入や、当日運営は運営委員で行った。職員自身もプレーに参加。

**【主な成果】**

少子高齢化の中でも、親子での参加もあった。小学生と、大人のふれあいの場を持つことができた。

職員も参加することで、普段会議の席では話すことのない話題もあり、交流のよい機会となつた。

**【課題】**

高齢化によって、参加できる人が少なくなってきた。

また、運営自体がきびしい地域もある。

**【事業名】声の広報(議会だより)**

**【概要】**

議会の機関紙(議会だより)の音声版の作成。

**【主な成果】**

声の広報を必要とされている方への対応が、市民である「テープはしもと」様によって実施されており、課題に対する対応が協働によって達成されている。

**【事業名】橋本市アダプト制度**

**【概要】**

橋本市所管の市道、公園等の清掃や草刈り

**【主な成果】**

公共施設をより恒常に清潔な状態に保つことが出来た。

**【課題】**

ボランティア団体との活動の調整

**【事業名】①陶磁器リサイクル市開催**

**②リユース市の共催**

**【概要】**

①地区主催の陶磁器リサイクル市のスタッフ及び補助金。

②生活環境課及び衛生自治会主催の生ごみ減量講習会開催時に市民活動団体(みらい橋本会・みんなで商店)のリユース市を同時開催

**【主な成果】**

**[R5.2.8時点]**

①R4年度開催区数:60区(2回開催している地区あり) R4年度開催回数:7回

②R4年度開催回数:3回

**【課題】**

①地区主催の為、開催する区と開催しない区がある。

②R4年度からの取り組みの為知名度が低い。ただし、団体側にもキャバがあるので知名度の急激な上昇は求めていない。

**【事業名】第二層協議体(恋野地区)****【概要】**

恋野地区などで協議体を結成し、地域課題やできることを探り、取り組みを進めています。

**【主な成果】**

恋野地区に週1回、移動スーパーが来ており、買い物支援や集まりの場となっている。

**【課題】**

住民ニーズとできることのギャップがあること。

**【事業名】橋本市健康推進員****【概要】**

講習会を終了した市民を健康推進員に委嘱し、健康づくり事業の推進、支援する。

**【主な成果】**

健康づくりに関心をもち、自分の健康は自分で守るという意識をもつ市民を増やすことができている。

**【課題】**

個々の市民への意識付けのみとなっており、健康推進員を活用しきれていない。

**【事業名】ケースについての見守り**

(DVや虐待等のケース対応)

**【概要】**

当センターでは、妊娠期から18歳までの相談支援を関係課・関係機関と共にに行っている。相談支援が増加し、行政だけでは抱えきれない状況が出てきている。急性期は専門職や関係課・関係機関で対応していかざるを得ないが、それ以降地域で見守ってくれるシステムの構築が必要と考えている。その中で、不登校支援をしている「ぼれぼれ」と学校、ハートブリッジが協働で支援したケースがあった。

**【主な成果】**

個々の事例ではあるが、協働で支援したことで登校再開につながった事例があった。

**【課題】**

今は、関係課・関係機関との連携は充実してきているが、地縁組織や市民活動団体との協働については、個人情報保護の関係もあり、体制の構築に二の足を踏んでいるところもある。

**【事業名】生活支援体制整備事業****【概要】**

地域の住民や各種団体、企業の関係者など様々な人々が連携しながら、多様な日常生活上の支援体制の充実・強化及び高齢者の社会参加の推進を一体的に図って行くことを目標に、「協議体」や「生活支援コーディネーター」の活動により、高齢者を支える地域づくりを進めている。

市内10か所に分けて各地域の高齢者の困りごとを把握し、地域の資源を活用しながら困りごとを解決し、住民が地域でいつまでも生活できるように協議を重ね、住みやすい地域づくりを行う。

**【主な成果】**

社会福祉法人が地域貢献として、区と協働で地域住民を定期的に買い物ツアーを実施することができた。有償ボランティア制度を構築し、草引きや蛍光灯取り換え、ゴミ出しなどを開始した。

通院送迎できるよう仕組みづくり、ボランティア募集を行い、令和5年度早期に向け協議をしている。民間事業者による移動販売車の誘致により、地域に移動スーパーが来て、買い物だけでなく地域づくりや高齢者の見守りにつなげた。

**【課題】**

高齢者アンケート調査で上位に来るものとして、通院や買い物などの買い物・移動支援、話し相手や身の回りの世話、見守りなどがあり、地域住民がボランティアでサービスの提供ができるようにすすめている。コロナ禍の中、協議がすすまないところもあったが、協議は続けてきた。

**【事業名】あやの台防災キャンプ****【概要】**

あやの台小学校にて、小学生及び地域住民の方を対象とした訓練を行いました。

内容としましては、初期消火訓練、煙体験ハウス、応急手当指導(止血処置、応急担架作成、負傷部固定)です。

**【主な成果】**

止血処置、応急担架作成、負傷部固定等、非常時に役立つ知識を講習できたと感じます。

**【課題】**

6~8人のグループに分かれて訓練を行ったのですが、時間の都合上詳しく説明することができない部分もありました。

**【事業名】信太地区活性事業(信太地区振興協議会)****【概要】**

高齢化、人口減少等の背景をきっかけに、  
信太地区の遊休資源(公共施設、農地、山林、空き家)等を活用した活性化の実行  
信太地区振興協議会を設立し、下部組織である魅力アップ部会を中心に地域内活動を実施。

**【主な成果】**

行政主導から住民と協働にするために、まずは会議運営の仕方や配置等を変えることで、  
話し合いの場でYES、NOだけでなく様々な意見が出るようになった。  
住民の中で主体的、想いの強い方をキーパーソンとして、その方を介したコミュニケーションを取ることで、少しずつではあるが協働の方向性に進んでいる。

**【課題】**

プロジェクト始動の始め方が、行政目線・行政主導で行ってしまっており、  
行政が進め、住民が承認、意見をするという構図で固まっていること。  
行政職員が「自治と協働」についての知識や他地域事例、実感が無いまま従来通りで進めてしまうこと。

**【事業名】子ども冒険村**

ジュニアリーダー研修会

青指連へのレクリエーション依頼

20歳のつどい実行委員会

**【概要】**

子ども冒険村

実行委員会が主となり動き、協力団体の青指連がイベントの内容を決定し、小学生を対象としたイベントを実施

ジュニアリーダー研修会

橋本市子ども会連絡会が主となり動き、協力団体の青指連がイベントの内容を決定し、小学生を対象としたイベントを実施

青指連へのレクリエーション依頼

各団体や地域の子ども会からの依頼を受けて青指連がレクリエーションをする。

20歳のつどい実行委員会

20歳のつどい対象者で構成されており、20歳のつどいの内容を決めていく。

**【主な成果】**

ボランティア団体と地域の団体がお互いに協力し合いイベントを実施している。

**【課題】**

コロナで依頼の減少、子ども会の減少、イベント会社からの依頼などもあればいいのでは?と少し感じ

**【事業名】空家発生プロジェクト****【概要】**

城山台連合自治会、岸上区、嵯峨谷区と協働で空家発生を予防するための実態調査、意向調査、出前講座、その他試験的な取組を令和5年10月まで実施。

**【主な成果】**

城山台で出前講座を開催し126名参加。

岸上で空家70件把握、それぞれ再建築に必要な接道要件を満たすかどうか調査。

**【課題】**

市側のマンパワー不足(係正規職員2名病欠による)

**【事業名】橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会****【概要】**

協働のまちづくりをより一層進めるため、基本的な考え方やルールなどを定めた条例である『橋本市の自治と協働をはぐくむ条例』の実効性の検証や見直しを検討する委員会。

学識経験者、団体所属員、市民公募委員のうちから20人以内で組織される。

**【主な成果】**

すこやか橋本まなびの日でのブース出展や広報はしもとへの記事掲載など、行政とは違う角度での啓発を行っていただいている。広報の作成を始めてから、市民からの問い合わせ、はぐくむサポーターの登録などの反応が見られるようになった。

**【課題】**

委員の皆さんには積極的に活動頂いており、まだやりたいことがたくさんあることを感じるが、そのすべてに事務局がついていくことができない。(リソース不足)

**【事業名】**橋本市交通指導員会

**【概要】**

地元の企業、ボランティアの方々と協働し、小学校、幼稚園への安全教室、大型商業施設での啓発活動等を通じて交通安全活動を行っています。

**【主な成果】**

啓発活動を通じ、交通安全に貢献することができた。

**【課題】**

会員の高齢化、会員の啓発活動への参加率低下。活動に参加する会員及び不参加の会員の両極端化

**【事業名】**ため池ハザードマップ作成

**【概要】**

防災重点農業用ため池のため池ハザードマップの作成にあたり、区長及び水利組合役員の参加でワークショップを開催した。

**【主な成果】**

ため池ハザードマップの原案に対して意見をいただくことで、単にマップの最終形の確認だけでなく、参加者の防災に対する意識が高まったと思う。

**【課題】**

コロナ前は、区及び水利組合から数名の参加を求めていたが、コロナの影響もあり、代表者のみの参加依頼となっていること。

**【事業名】**橋本市家庭教育支援チーム委嘱事業

**【概要】**

家庭教育支援チーム「ヘスティア」と協働して子育て中の保護者の支援を行う

**【主な成果】**

年間100回程度の講座を開催し参加者数は延べ2000人を超える。

年間50回程度の個別相談や子育てに関連する情報を掲載した情報誌の発行等、様々な分野で子育て支援を行っている。

**【事業名】**認知症キャラバンメント活動、

**【概要】**

認知症の正しい理解促進のため地域、職域、学校などサポーター養成講座など連携実施している。

**【主な成果】**

小学校、中学校における認知症学習を取り組んでいる。

地域、職域における講座実施

**【課題】**

介護現場の人が半数、地域住民の人が半数だが、高齢化に伴い名前だけの登録で実働部隊になっていない人が増えている。

協働を推進する上での、全庁的な課題と、その課題が発生していると思われる理由

市民の皆さんに協働の条例が知れ渡っていないように思います。市民の皆さんにもっと知ってもらうための、講座をいろんな所で開催してほしいです。

各部署の仕事量と人員の関係。新しいことへの取組みと時間的・精神的な余裕の関係。

「個」が中心となってきている。「団体」の高齢化・マンネリ化・厚い壁・男性中心。働く人が増え、また定年の延長などに伴い年齢関係なく生活が多忙化し、地域で活躍する(出来る)年齢層がどんどん高齢化している。

当初の目的が経年とともに形骸化すること。行政の立ち位置が担当者によってぶれること。

協働の意味や目的があまり理解されてない。

なかなか市民の声が聞けないから

リーダーシップをとり、やる気を引き出せる人材の育成、配置。公と民が自治を作り上げていくときに必要なスピーディーな予算の確保。必要な人材や物質面を確保できる。マンパワー、実行力、表現力、実行力のある人材の育成

名前が難しくてなじみにくい

市民の方(あらゆる年齢層の人・小学校低学年～高齢者)と、双方向で会話するという土壤が、市役所各部局全てに希薄である。

市民及び職員の意識改革。

歴史的に「そういうもの」という考えが根付いているから。(役所は市民の要望を聞くところ、「共に〇〇していこう」ではない)

業務以外での行事等のなかで市民から聞く話として、市がすべき、職員がすべき業務を押し付けられていると感じている市民がいる。事業の実施や中身が決まってから市民にその情報が伝わることが多いのが原因と思う。市が一定の主体性を持つとしても、実施の是非を検討する段階や企画立案の段階から市民に関わってもらえば協働で実施している意識が高まるのではと思う。

協働による事業実施が必要と市民に理解してもらうことが難しい。協働を開始する時点においては、単独で実施するよりも時間・手間がかかる。こちらの見込み通りの実施内容・実績に持つて行くことが難しい。協働相手先の長の異動などにより協働への考え方方が変わるものがある。

行政側としては、「協働」を押し出しているが、地域的には、動くことのできる人材の確保が難しいと聞いていている。区長さんからの話では、公民館の運営委員も、高齢化で辞めたい方がおり、その後継者が見つからないと嘆いておられた。地域によっては、自分で後継者を見つけないと辞められないという話も聞く。行政と地域の思いが合致していないと思う。

まだまだ、縦割りで業務をすることが多く、各課との横の連携がもっと必要である。

市外から通勤職員等、自分も含めて職員の中でも地域と関わることを積極的に行えていない人が多いと感じる。

職員が参加していないのに市民に協働を求めても説得力にかける。

市民との距離がある今はあまりにも距離が遠く、市役所がみえない。自分や家族の問題として捉えることができていない。客観的視点に傾きすぎているのか。一部の職員しか「協働」を理解できていない。関係ないと思っている職員もいるのでは。協働していても、気づいていない。「協働」を理解しないまま動いている。「橋本市の協働」を意識できるような研修や職員に対するアプローチが少なすぎる。そもそも、橋本市が「協働」を推し進めていることを知らない職員もいる。「協働」に対するアプローチが弱い。

参加できる方の意見に偏りがちになる、子育て世帯等が忙しくて参加できない。

個人情報の取り扱い

協働の実績がある部署とない部署での差が大きいように思う。ない部署は、どのような協働の形があるのかも知らない。知らないことが課題かと思うが、知るためにどうすればいいのかわからないし、知っても実感がないので自分事として考えにくい。

協働を推進していくという職員の意識を醸成し、それぞれの部署においてどのように協働を進めていくのか考えなければならないという課題があると思います。しかしながら、個々の職員の学習機会が少ないと経験不足により具体的にどういったことにどのように取り組んでいけばいいのかわからないといったこと、日ごろの業務に追われており、考える余裕がないといった問題があり、それらを解消していく必要があると考えられます。

取っ掛かりとしては、どこから手を付ければいいのかわからないのではないかと考える。導入すれば定期的に会合などをしていくことで理解が深まっていくように感じるが、最初の導入のハードルが高いように感じる。

市内にどのような団体があり、どのような活動で協働(協力)してもらえるのかがわかりにくい。

協働は目的か手段か。金の切れ目が縁の切れ目。

やったことがないことへの恐怖というか心理的抵抗があると思います。一度、体験できれば心理的なハードルは低くなると思います。

### 協働を増やしたい・始めたいと思うか否かの理由

#### ①増やしたい・始めたい

子どもから高齢者まで安心して生活できる橋本市にしたいから。

たくさんの方の知識や経験をお借りして、今後の活動の範囲を広げてみたいと思っているから。

行政だけでは処理できないことが増えてきている

公民館の使命だと考える。

地域の園として、地域の方と共に子育てをしていくことの意義を大切にしたい。しかし、負担になるような大きな事業でなく、小さなことを大切に行っていけたらと思う。(しかしコロナ禍の課題は残る)

橋本市の将来がもっと豊かなにするために必要と考えるから。

それぞれの強みを活かし合うことができるため。

だれかがやってくれる。他力ではなく。協働で作り上げていく政治やまちが大切だから。

今の部署ではどうしても市民の方よりも市外の方へアピールする機会が多いのですが、「市民の方から見た地域の魅力」も一緒に発信できれば、橋本市の良い所をさらにアピールできるのではと思っています。ひとりでやるよりはみんなで、いろんな視点を持って一緒に取り組むことで、さらに充実した橋本市になるのではと思っているので、今後より多くの方と業務ができればいいなと思います。

すべてはこどもたちのため

今後、一層、市職員のマンパワーが不足していく。住民へのきめ細やかな行政サービスに対応していくには、住民でできることはお願いし、余力を他へ回して行くべき。

「市民と距離の近い市役所」は、若い世代からみても将来的な不安が少なくなるのではと思う。魅力的な市として、人口増加につながるのではないか。

協働を取り入れた方がよりよい業務の成果に繋げられると思うので

行政のみで多様化した市民サービスをフォローするのは限界があるから

地域のことを一番よく知っているのは地域の方であると考える。その中で行政としてできること、できないことを精査する必要があると考える。

人口減少により、市役所では職員や予算の減少、地域では地域活動の担い手の減少などそれに課題を抱えている。さらに、ますます進む少子高齢化や地域格差の拡大など様々な社会情勢の変化があり、これまでどおりのやり方では行政運営や地域運営が停滞する恐れがある。このような時代にこそ行政と市民が助け合い、協働して持続可能な地域づくりを行っていくことは大事なことと考える。

子育て世代の意見が反映しやすくなる。

協働について知りたいからです。

#### ②増やしたくない・始めたくない

私は協働についての理解がまだ不足しているので。

時間の余裕がない

今までいいから

どうしたらいいのか分からぬ。協働相手(市民等)に仕事のなすりつけだと思われるのではないかと不安。

個人情報を扱う業務なので、協働は困難と考える。

地区内の協働については、当番制で回ってくるものもあり、増やしたいとは思わない。

増やしていくないと今後成り立っていないと感じるが、協働は、活動する人が決まってしまうとか、人員確保、責任問題、人の価値観の違いなど課題が多いので、そこに手間をかけるのなら職員を増やして、補助金を減らして、職員で対応する方がスムーズなのではないかと思う。

少子化、若者の都会離れ、人口減少により税収も減少していることでこういった政策をしなければならないと思うが、時代の流れの政策よりも、子どもが増える仕組みや人口が激増するような政策を全力で市民に伝わる様に出来ればいいのではないかと考えるため。

生涯学習課としては多くの協働がある。増やすより、いまあるものを大切にその質を高めていくべき。

協働の必要性、協働にできる権限の範囲、最終的な責任の所在、推進しないことで起こる損益の不明瞭さ

#### ③どちらでもない

協働の取組みを行ったことがないため。

職員の人数が足りないので、そこまでの事業を進めることができない。どうしたらいいのかわからぬ

自分自身「協働」の理解がアヤフヤである。

行政が市民の協働なしてはすべてに手が足りないのは現実。しかし、謝金などの発生(委嘱)を理由に、行政からの要請の仕方に変容がでて、協力者の気力を断っている。相互に繰り返されるその実態を見るのは嫌になる。気持ちよく力を貸してもらえて双方に笑顔がみえるには何が必要なのか。考えてもらえるという希望がわからない。

協働を始めるこの意義やよさは理解できますが、青少年の現状や現職の業務内容を鑑みて、協働を始める(増やす)ことによるリスクもあると思ったため③を選びました。

コロナ禍で、今まで行ってきたことが、3~4年間、中止となっている。運営委員さんの変更、また職員も退職、異動などで、詳細が不明になっている館が多くある為、まずしっかり地盤を固めてから、今後、増やしていくべきである。その間、職員がレベルアップできるよう研修に時間をあてる。

増やせたら良いと思うが土曜日も出勤しているので、休みがなくなる。

中心になるのはむつかしいが協力はしたいと思う

働き方改革をする上で、今の業務をどう質を落とさずこなすかを考えている。やるからには、中途半端にしたくない思いもあり、実施できるか自信がない。

今まで困っていない

業務によって適不適、要否があると思うため。

協働の考えは良いと思うが、それらに係る手間等が、職員にしわ寄せとなって降りかかることが予想される為。

協働が進めば、町は豊かになると思いますが、市民に強要はできないと思う。今の時代、何か対価(メリット)を求める風潮が強い。

金銭を支払うことが難しければ、それ以外のメリットを感じる必要があると思う。そのメリットも皆異なると思うし、非常に難しい問題だと感じます。

協働を市民に広めるためにはどのような方法が考えられると思いますか。

どんどん地域に出ていき、いろんな地域の方との交流することが、協働のきっかけとなると考える。

成功事例及び失敗事例を広く周知すること。

積極的な広報・広聴の場を増やし、研修会、講演会を行う。

我々職員自身がもっと勉強すべき。

市民は楽しいこと、面白いこと、生活の為になること等本来の目的とか関係ないことと、コラボする必要があると思います。

協力できるできないは、自分ごとになれるかなれないかだと思う。例えば児童生徒に関する協力要請の時に、子育て中の保護者に向けても人が集まらないと嘆く姿を見かけるが、おじいちゃんおばあちゃんの立ち位置の人に向けて協力要請するのはどうか。本市は高齢者の活躍が望めると思う。また、人を集めには顔の見える行政の活動が効果的と考える。各地に挨拶に回る草の根活動。顔のつながった方の協力はとても手厚い。

(時間・お金)余裕がない。経済的に報われること。それがなければ未来のことまちのことを考えられないと思う。思いのある人はたくさんいると思うので、特に現役世代に関わってもらう必要がある。現役世代のリーダーさんを育てていくことと、現役世代が参加しやすい時間帯や方法で、未来の幸せなまちを作っていくために必要な他人事ではないような課題を投げかけていくこと。安心を作るために必要な事は何か。

民間団体を巻き込む等、大勢の人を巻き込む取組

既存の「協働」の事例を広報等で市民に紹介

動画などを作成して若い人に興味をもってもらう

市職員が、自己の業務の外枠で各人の努力でなんとかしようというのではなく、勤務の中に組み込むことで、広がっていくのではないだろうか。

成功事例及び失敗事例を広く周知すること。(特に失敗事例)

防災等、体験型のイベント等を開催する。(コロナも5類に引き下げられるのでイベントも可能なのでは?)

小学生など子どもの時期から協働についての学習を深めてもらう。地域通貨の支給など分かりやすいインセンティブを用意する。

はぐくむ委員が定期的に行政とお話ししたり一緒に作業する機会をもっててくれているように、もっと近い距離で一緒に取り組めることができれば、市民も行政もお互いに自然に協働できるようになるのではと思いました。

SNS、橋本市のチラシ、橋本市のホームページ、広報車で放送しながら、市内を走行する。

|  |
|--|
| 協働＝無償ボランティアの意識を変え、予算も一定配分し、市民の手による地域づくりに移行。<br>有償ボランティアという考えも必要になる。  |
| ホームページやSNS(特にインスタグラム)  |
| 手軽さ(スマホで簡単に協働に参加できるなど)   |
| 専門に取り組むチーム(外部も有り)を設置し、地域運営組織の立ち上げと地域の協働による自治意識の醸成に向け取り組む。  |
| 市で実施するイベントだけでなく、民間団体が実施するイベントなどでもスタンプラリーなど楽しめる形で協働を知ってもらう。   |
| まずは、地縁組織別に考えるのかどうかの前提条件を検討する必要がある。地縁組織別に考えるのであれば、まずは、地区組織に居住している職員を役員等として活動することから始めるべきと考える。それが第一の目標として、次の活動を考えていけば良いと考える。10年後か20年後には、地域の過疎化が進むので、組織作りが重要である。 |
| 具体的な方法が思いつかず申し訳ないですが、協議体や自治会とのつながりを維持、発展させが必要だと思います。   |
| 一気に広めることはむずかしいと思うので、つながりを継続し、例えば協働での事業を体験した方が知り合いに話し、口コミで広がったり、見たり聞いたりした方が興味を持ったりして徐々に広めていくのが現実的かと思います。  |
| なかなかきびしいと思う。協働する内容の絞り込みが必要。風呂敷を広げすぎると、市民が疲弊するのでは?  |
| 協働という「ことば」ではなく違う「ことば」を使う   |
| 広報などの一般的な周知も必要。他には、和歌山テレビのCM→和歌山テレビを見る人は、地元への関心、愛着等ある方だと思うので、効果的かと思います。  |
| 農業、商業関係者への周知→地元でも顔が利くと思う。説明などは大変だと思うが、協働に対する理解が深まれば、心強いのでは。いい意味で交流のツールとしても使ってもらい、より良い関係性を築いてもらう。   |
| 市のOB職員の力をうまく借りて進めていくのは、一つの方法であると思われる。  |
| 広報などの活動。子供の巻き込み型の協働などで実績を上げる(学校行事などとして実施し、その親も巻き込むなど)。   |
| 「はぐくむ条例」のより一層のPR(キャッチコピーを市民の目につく場所に掲示するなど)   |
| 「協働」というワードが「難しそう」「よくわからない」というイメージを持たれそうなので、もっと易しいワードにする  |

|   |
|---|
| 職員への協働研修を今後も検討しています。どのような研修が良い(参加したい)と思いますか。  |
| 職員の個々の勤務実態に合った研修内容だと参加しやすいです。   |
| 橋本市の職員のダメな点をあげるだけでなく、応援するような講師先生による研修、具体的な例をあげたわかりやすい研修がよいと思う。  |
| 協働を初めて聞いた人にも興味がわくような研修からお願いしたいです。   |
| まだまだ、協働についてわからないことが多いので、事例を教えていただくと嬉しいです。橋本市の協働基本方針について目を通したことはあるが、熟読は全くできていないので、名前だけ知っている程度です。           |
| 自治体が抱える課題に”協働”がどのように役立つかを具体的にイメージできるよう、テーマ別、分野別の研修内容であれば興味を持ちやすいと思います。                                    |
| 難しいかもしれません、勉強ではなく実地の研修がしてみたいです。   |
| 保育園でのやり方で検討してほしい  |
| 職員全員対象の研修をおねがいします。  |
| 幼小中学生が参加することで家庭にも意識付けできる。   |
| 全職員参加型で短時間でいいので、研修の頻度を増やすと、もっと意識の向上になるのではと思いま<br>先进地・市内事例の上手くいっている点・課題点について研修を行っていただきたいです。(任意参加、動画での研修希望) |
| 今のはぐくむ委員、歴代のはぐくむ委員も含めて、みんなで一緒に取り組める研修があるといいなと思います。先日行なっていた研修をいろんな世代でやってみるのも面白うだなと思いました。                   |
| PCを用いてzoom研修がいいと思います。   |
| グループワークなど参加型の研修。各課(児童・高齢・障害・経済など)の特徴に合わせた事例等の提示   |

先進団体から職員を講師として、やり方を研究していく。職員に、できそうなことを考えるよう、仕向けて行く。いずれ、住民主体のワークショップ的なことへ発展させていく。はぐくむ委員も、もっと増やしていければさらにいいと思う。

本件は、本来、職員がアイデアを出して議論する必要がある最重要なことであると考える。個人的には、ゴールを決めた計画を策定することであるが、喫緊の課題であるので地縁組織への具体的な情報提供と、1年後・2年後・5年後・10年後の地縁団体との目指すべき姿をイメージし、それに向かって活動することと考える。よって、研修というより組織構築をしないと間に合わないと考える。

知識がない人に分かりやすい研修をしてほしいです。

若者に対するアプローチの研修など。60歳以上の人で構成される協働や団体はこれ以上不要だと感じるので、若者が協働したくなるような研修。

各課で案を出して発表し、その案について考える。消防署で災害出動の勤務のため、本庁と関りがほとんどない。まず、各課の考えを知りたい。

ディベート形式での研修もあるといふと思う。

事例紹介と並行して、アドバイザーなどの登用があれば助かります。

庁内一斉清掃?無茶かな

令和4年度の研修に初めて参加した。話が絶えず時間が足らないと思った。このような研修の場が続けられたらと思う。また、この研修から、何をどうのようにしたいかの意見ができると思うので、その貴重な意見を取り上げていってほしいと思う。

職員全員を対象とした研修で、基礎的な内容から段階を踏んで市内事例等紹介してほしい。